**１．事業の目的**

知的障害者福祉法及び障害者総合支援法に基づき、利用者一人ひとりの能力や適性及びニーズに応じて、生活支援、就労支援のサービスを提供し自立した日常生活、社会生活が確立できるよう支援する。

　知的障害者福祉法の基本理念と関係法令及び省令等に基づき、その利用者に対して、その自立と社会経済活動への参加を促進する観点から、必要な訓練及び職業の提供を適切に行い、出来るかぎり居宅に近い環境の中で、地域や家庭と結び付きを重視した支援を行う。

**２．基本方針**

施設の基本方針

（１）利用者の人権を大切にし、利用者一人一人としっかり向き合い個々のニーズにあった支援

（２）利用者・家族から、信頼を得られるサービスの提供

（３）地域との連携

**３．利用者の状況について**

1. 平成３０年度利用者入所状況

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 定　員 | 入　　所 | | |
| 男　　性 | 女　　性 | 計 |
| 平成３０年度 | ２０名 | ３名 | ０名 | ３名 |

（平成３０年４月1日～平成３１年１月３１日現在）

1. 平成３０年度月別入所状況

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | 10月 | 11月 | １２月 | １月 | 合計 |
| 男性 | ３名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ３名 |
| 女性 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 |
| 計 | ３名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ３名 |

（平成３０年４月1日～平成３１年１月３１日現在）

1. 平成３０年度利用者退所状況

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | | | 退　所　理　由 |
| 平成３０年度 | 男性 | ０名 |  | |
| 女性 | １名 | 他施設利用 | |

（平３０年４月1日～平成３１年１月３１日現在）

**－２－**

1. 入所者の当施設利用前状況

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 在宅 | 特別  支援学校 | 生活介護 | | 就労移行 | 就労継続 | | その他 | 計 |
| 入所 | 通所 | Ａ | Ｂ |
| 男性 | ０名 | ３名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ３名 |
| 女性 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 |
| 計 | ０名 | ３名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ０名 | ３名 |

（平成３０年４月1日～平成３１年１月３１日現在）

1. 前年度からの状況

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 入所総数 | 退　　　　　　　　　　　　所 | | | | | | 現員 |
| 就労 | 他施設 | 在宅 | 死亡 | その他 | 計 |
| 男性 | １８ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | １８ |
| 女性 | ９ | ０ | １ | ０ | ０ | ０ | ０ | ８ |
|  | ２７ | ０ | １ | ０ | ０ | ０ | １ | ２６ |

（平成３１年１月３１日現在）

1. 利用者性別・年齢別構成

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | １８～１９歳 | ２０～２９歳 | ３０～３９歳 | ４０～4９歳 | ５０～59歳 | ６０～６９歳 | 計 | 平均年齢 |
| 男 | ４ | ９ | １ | ４ | ０ | ０ | １８ | ２８．６歳 |
| 女 | ０ | ３ | ３ | １ | ０ | １ | ８ | ３６歳 |
| 計 | ４ | １２ | ４ | ５ | ０ | １ | ２６ | ３０．８歳 |

（平成３１年１月３１日現在）

1. 知的障害状況（療育手帳）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 障害程度区分  性別 | 最重度 | | | 重度 | | 中度 | 軽度 | **合計** |
| -１ | -２ |  | Ａ-１ | Ａ-２ | Ｂ-１ | Ｂ-２ |
| 男性 | ４ | ３ | ０ | ６ | １ | ４ | ０ | １８ |
| 女性 | ２ | １ | ０ | ５ | ０ | ０ | ０ | ８ |
| **計** | ６ | ４ | ０ | １１ | １ | ４ | ０ | ２６ |

（平成３１年１月３１日現在）

1. 障害程度区分

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ３ | ４ | ５ | ６ | 計 |
| 男性 | １ | ４ | ５ | ８ | １８ |
| 女性 | ０ | １ | ３ | ４ | ８ |
| 計 | １ | ５ | ８ | １２ | ２６ |

（平成３１年１月３１日現在）

**－３－**

1. 通所手段

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 送迎利用 | 徒歩 | 保護者送迎 | 計 |
| 男性 | １８ | ０ | ０ | １８ |
| 女性 | ８ | ０ | ０ | ８ |
| 計 | ２６ | ０ | ０ | ２６ |

（平成３１年１月３１日現在）

1. 居住地構成

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 香取市 | 旭市 | 匝瑳市 | 銚子市 | 多古町 | 計 |
| 男性 | １３ | １ | ２ | ２ | ０ | １８ |
| 女性 | ５ | １ | １ | ０ | １ | ８ |
| 計 | １８ | ２ | ３ | ２ | １ | ２６ |

（平成３１年１月３１日現在）

（１１）　　居住先状況

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 自宅 | 施設（短期入所） | グループホーム | 計 |
| 男性 | １５ | １ | ２ | １８ |
| 女性 | ５ | １ | ２ | ８ |
| 計 | ２０ | ２ | ４ | ２６ |

（平成３１年１月３１日現在）

**４．施設サービス利用率**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 稼働日数 | 利用者数 | 総日数 | 総出席数 | 総欠席数 | 利用率 |
| ４月 | ２２日 | ２７名 | ５９４日 | ５５０日 | ４４日 | ９２．５％ |
| ５月 | ２３日 | ２７名 | ６２１日 | ５６７日 | ５４日 | ９１．３％ |
| ６月 | ２２日 | ２７名 | ５９４日 | ５５０日 | ４４日 | ９２．５％ |
| ７月 | ２３日 | ２７名 | ６２１日 | ５４８日 | ７３日 | ８８．２％ |
| ８月 | ２３日 | ２７名 | ６２１日 | ５４８日 | ７３日 | ８８．２％ |
| ９月 | ２２日 | ２６名 | ５７２日 | ５０４日 | ６８日 | ８８．１％ |
| １０月 | ２３日 | ２６名 | ５９８日 | ５５８日 | ４０日 | ９３．３％ |
| １１月 | ２２日 | ２６名 | ５７２日 | ５２４日 | ４８日 | ９１．６％ |
| １２月 | ２３日 | ２６名 | ５９８日 | ５１５日 | ８３日 | ８６．１％ |
| １月 | ２２日 | ２６名 | ５７２日 | ４９３日 | ７９日 | ８６．１％ |
| 合　　　計 | | | ５,９６３日 | ５，３５７日 | ６０６日 | 平均　８９．８３％ |

　（平成３１年１月３１日現在）

**－４－**

**５．職員研修**

利用者一人ひとりとしっかり向き合い個々のニーズにあった支援を目標とし、主体的にスキルを磨き職員全員で共有し一貫した支援ができるよう研修を実施した。

【研修実績報告】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実施日 | 研修内容 | 参加者 |
| ６月１日 | 食品衛生講習会 | 野口てるみ |
| ７月２５日 | 安全運転管理者法定講習会 | 宮﨑　達也 |
| １０月１１日 | 食品衛生組合視察研修 | 野口てるみ　上石さくら |

（平成３１年１月３１日現在）

**６．行事**

（１）施設・地域行事、その他

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 | 行　　事 | 月 | 行　　事 |
| ４月 | 新入所者歓迎会　みどり祭り | ９月 | 八都第二小学校運動会 |
| ５月 | バーベキュー　いちご狩り | １０月 | サツマイモ収穫 |
| ６月 | 個別面談　散策 | １１月 | 山田ふれあい祭　　八都第二小学校交流会  インフルエンザ予防接種 |
| ７月 | 創作活動　避難訓練 | １２月 | 大掃除　　健康診断  クリスマス会　冬季特別休暇 |
| ８月 | 夏季特別休暇　ぶどう狩り | １月 | 香取神宮参拝 |

（平成３１年１月３１日現在）

利用者が楽しみにしているスポーツレクリエーションを月１回の目安として計画したが、利用者の体調、夏季・冬季は気温の関係で行うことが出来かった。バーベキューでは始まる前にダンスやビンゴ等を行い、お腹を空かせて参加することで皆お腹いっぱい食べ、楽しく過ごせた。また、今年度も地域の生産農家の御厚意により、ぶどう狩りやいちご狩りに声を掛けて頂き、新鮮な果物を自ら収穫してその場で食べることの喜びを味わえた。６月には、保護者との個別面談を行い、施設に対する要望や貴重な意見を頂いた。１１月には利用者２３名で山田ふれあい祭りに参加し、お店等で一人ひとり好きな物を購入した。クリスマス会では、利用者のリクエストメニューを会食に取り入れ、提供した。また、利用者一人ひとりに合ったプレゼントも用意し皆喜ばれていた。１月には、一年の健康・安全を祈願しに香取神宮へ参拝に行き、参道ではお団子やコロッケ等自ら購買し、久しぶりの外出を満喫された。

**７．災害事故防止対策**

（１）非常災害対策

◆目的◆

火災、地震等の災害時における利用者の避難誘導体制の強化・確立を目指し、職員の防災に対する意識の高揚を図る。

-5-

【避難訓練実績報告】

|  |  |
| --- | --- |
| 実施日 | 訓練内容 |
| ７月１１日 | 日中地震・火災想定　（初期消火訓練　初期動作　避難訓練　通報訓練） |
| ２月１３日実施予定 | 日中地震想定　（初期動作　避難訓練、通報訓練） |

（平成３１年１月３１日現在）

◆今年度を振り返って◆

　今年度は３名の新しい利用者が増え、新体制での防災訓練を実施してきた。また、余震活動が治まってきている事もあり、各々の地震に対する意識が低下してきているように感じられる為、常時、災害に対する意識を持って職員一人一人が通常業務に取り組めるよう訓練を行ってきた。

（２）安全運転管理

◆交通安全への取り組み◆

・　　日常点検、交通安全教育の実施

* 運転日誌の記録
* 運行計画の作成
* 安全運転指導、安全運転ポスターの掲示
* 異常気象時等の措置
* 賠償責任保険や自動車保険の加入等、万全の態勢で取り組んでいる。

**８.給食について**

◆給食での主な取り組み事項◆

・　　衛生管理の徹底

・　　各種点検記録整備

・　　温かい食事、リクエストメニューの提供

・　　行事食の充実

・　　市場価格調査実施

◆今年度の給食運営◆

　利用者が何よりも楽しみにしている給食については、今まで通り月に一度の嗜好調査を行い、聞き取りで利用者がリクエストしたメニューを献立に反映させてきた。月末に献立表が配布され、自分のリクエストしたメニューがあると喜んで他利用者に教えたりしていた。また、調査時に「○○さん、○○○リクエストして」など、利用者同士の会話が広がる姿も見られた。

嚥下機能が低下している利用者には刻み食の提供を行ってきたこともあり、以前と比べて食事中にむせることは少なくなってきているが、ゆっくり少量ずつ口に運ぶことができるよう食事介助者が留意してきた。また、食べる姿勢や箸の持ち方等の正しい食事マナーを身に付け、楽しく食事ができるよう取り組んできた。おかわりの量は適量且つ他者を気遣えるよう声掛け・見守りを行ってきた。

-6-

【嗜好調査反映報告】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 | 反映されたメニュー | 月 | 反映されたメニュー |
| ４月 | 牛丼 | ９月 | ポークソテー　ナス炒め |
| ５月 | 豚の生姜焼き　ポークソテー | １０月 | 豚汁　ミニオムレツ |
| ６月 | ハンバーグ | １１月 | 麻婆豆腐 |
| ７月 | ミートソーススパゲッティー　じゃがバター | １２月 | ローストチキン　ピザ |
| ８月 | 冷したぬきうどん　鶏のから揚げ | １月 | 鶏のから揚げ |

（平成３１年１月３１日現在）

**９.健康管理**

利用者は年齢、障害の程度、体力等にそれぞれ差があり、自分の体調不良を言葉で伝えることが困難な利用者もいる。送迎に行った際に保護者とのやりとりを通じ情報を得た事項は、職員全員に報告し情報交換する等、利用者の体調を常に把握し意識してきた。また年１回の健康診断を実施し、施設全体の健康管理に留意すると共に季節ごとに流行する病気などの情報をもらい、うがい・手洗いの励行等、感染の未然防止に努めてきた。

【感染の予防】

　　　・手洗い、うがいの徹底、インフルエンザワクチン予防接種

職 員　　　１１名

　　　　　　利用者　　　２６名

※平成３０年度　インフルエンザ　感染者　１　人　（平成３１年1月３１日現在）

【健康診断】

・　検査内容　（血液検査、尿検査、心電図、胸部X線検査）　　実施者　１５名　（年１回）

【健康管理と観察】

・　検温　（毎朝）・　体重測定　（毎月１日）

利用者個々の睡眠状況や食事摂取量・排泄・活動・癖やこだわり、表情に留意し、いつもと違う箇所を発見できるよう、常時観察を徹底し、異常が確認された場合には一早く対応できるよう取り組んできた。

**１０．創作活動**

ＤＶＤ鑑賞・ゲーム・塗り絵・カラオケと４つ用意し活動してきた。利用者が何を行うかアンケートをとる際に毎回「カラオケ」の意見が多かった。カラオケに参加したい利用者が決まってきているのと、ＤＶＤ鑑賞の意見も多い為、支援員が対応できる時はカラオケとＤＶＤなど２つに分けて、好きな方に参加できるよう工夫してきた。カラオケにもＤＶＤにも興味がない利用者もいるので、その際はゲームや、ぬりえ、スケッチブックを用意するなど利用者全員が参加できるよう配慮してきた。また、園庭にてダンスやボールを使った運動など、体を動かす機会を設け、健康管理に努めた。創作活動に意欲的に参加が困難な利用者については、カラオケなどに参加できなくても、外の空気を吸い、散歩するだけでも楽しめる利用者がいるのではとの意見があり、陽気の良い季節に、施設周辺の散策も計画していたが、支援員の態勢が整わず外出は困難だった為、来年度は実施できるよう考慮し、少しでも心身のリフレッシュにつながるよう支援していく。

**－７－**

**１１．地域福祉について**

（１）地域交流

地域交流を兼ね、共存型の地域コミュニティーを実現するために、地域イベントに参加し、地域社会の活性化を目指すとともに、障害者、支援者と地域住民との交流を図ってきた。今年度は「しもふさ学園　みどり祭り」「山田ふれあい祭り」に参加することができ、大判焼き・団子が好評だった。店舗では定期的に購入してくれるお客様も増えてきた。近隣の保育園・他施設からも大口の注文が入るようになってきた。これからも調理時間をよく把握し、職員間で連携をとり指定の時間に商品提供ができるようにしていく。常時用意しているかき氷が小学生に好評なので、来年度はかき氷の新メニューを考えていく。

年間を通じて多くのお客様に購入していただき、年間販売目標を大きく上回ることができた。来年度も、より良い地域交流の場としていけるよう店舗を運営していく。

　　【年間売上】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 商　品 | 売　上 | 備　考 |
| イベント（２か所） | 団子・大判焼き | ４１，２４０円 |  |
| 店舗　　（通年） | 団子・大判焼き・かき氷・心太 | １８３，３９０円 |  |

（平成３０年４月1日～平成３１年３月３１日現在）

（２）日中一時支援サービス

◆内容◆

日中一時支援サービスや特別支援学校、在宅者等の現場実習生を受け入れ、施設の専門機能を提供してきた。障害者等の日中における活動の場（施設における預かり・見守り）を確保し、緊急的な対応から計画的利用など、利用者または家族のニーズに柔軟に対応できるサービスを行っている。日常的に介護している家族

（介護者等）の一時的な負担軽減を図り、地域で生活する児童・成人の方で、日中に介護者がいない場合に日中一時支援サービスを利用できる。

**◆**日中のサービス**◆**

　　　・　自然の日課に沿って過ごしてもらい、施設体験を兼ねて充実した１日を過ごしてもらえるよう取り組んだ。  
　　　　　　　作業・・・農業・園芸・室内作業　　　　　　　　余暇・・・レクリエーション・創作活動等

**－8－**

【日中一時支援サービス利用実績報告】

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 性別 | 利用人数 | 利用回数 | **計** | 月 | 性別 | 利用人数 | 利用回数 | **計** |
| ４月 | 男性 | １名 | １回 | **１回** | ９月 | 男性 | ０名 | ０回 | **０回** |
| 女性 | ０名 | ０回 | 女性 | ０名 | ０回 |
| ５月 | 男性 | １名 | ２回 | **２回** | １０月 | 男性 | ０名 | ０回 | **０回** |
| 女性 | ０名 | ０回 | 女性 | ０名 | ０回 |
| ６月 | 男性 | １名 | ２回 | **２回** | １１月 | 男性 | ２名 | ９回 | **９回** |
| 女性 | ０名 | ０回 | 女性 | ０名 | ０回 |
| ７月 | 男性 | １名 | １回 | **１回** | １２月 | 男性 | １名 | １回 | **１回** |
| 女性 | ０名 | ０回 | 女性 | ０名 | ０回 |
| ８月 | 男性 | １名 | １回 | **１回** | １月 | 男性 | ０名 | ０回 | **０回** |
| 女性 | ０名 | ０回 | 女性 | ０名 | ０回 |
| **合　　　計** | | | | **１７回** |

（平成３１年１月３１日現在）

**１２.作業活動報告**

利用者個々の希望や、障害及び身体の状況に応じた２班体制で、作業技術の習得及び働く喜びを得るとともに、人との関わりの大切さを知ることにより、自主性を高め、自立した生活を送ることができるよう支援を行ってきた。

**－9－**

平成３０年度　作業指導報告

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 事業部署名 | | | 農耕班 | 担当支援員 | 宮﨑達也　加瀨千秋　上石さくら　鈴木敦功 | | |
| **目　　標** | 1. 大根や、からし菜等、積極的に漬物へ加工し、販売を行っていく。 2. 食品加工に携わる上で、遵守しなければならない、手洗い等の衛生面に関する、知識を身につけられるよう、取り組んでいく。 3. 土壌改良を重視し、年に一度は堆肥を搬入する。 4. 作付けを行う品種を厳選し、収穫できる野菜の品質向上を目指す。 5. 作付け計画を基に、作付け時期、収穫時期等を逃さないよう、取り組んでいく。 6. 必要な道具を、必要な時に、効率よく使用するため、機械のメンテナンスや手入れを怠らず、適正に運用できるようにする。 7. 防虫や病害虫、霜対策を徹底し、早期発見、対策に努める。 8. 収穫した野菜は、厨房への納品に拘らず、皆さんのご家庭でも味わって頂けるよう、品質の向上を行っていく。 9. 日々の作業の中で、利用者との信頼関係を構築出来る様、取り組んでいく。 10. 常に作物と向き合い、よりよい品質の作物を収穫できるよう、取り組んでいく。 | | | | | **年間作業報告** | |
| ４月 | 葉物播種  夏野菜定植準備  畑整備 |
| ５月 | 夏野菜定植  葉物播種 |
| ６月 | 夏野菜定植  葉物播種  ジャガイモ収穫 |
| ７月 | 夏野菜収穫  外注作業 |
| ８月 | 夏野菜収穫  畑整備 |
| ９月 | 葉物播種  外注作業 |
| **作業内容** | 1. 利用者が行った作業については、必ず支援員が確認をおこない、より精度の高い作業を行う。 2. 清潔な環境、調理器具で作業を行えるよう、整理・整頓・清掃を徹底する。 3. 作業が場当たり的にならぬよう、計画を立て、それらの計画に基づき、取り組んでいく。 4. 窒素冷蔵庫を、適正に使用し、収穫した野菜を、新鮮なうちに提供できるよう、取り組んでいく。 5. 利用者の表情や、様子を注意深く観察し、体調の変化を見逃さないようにする。 6. 気温や、季節に合わせた服装で作業に臨むことができているか、作業前には確認をおこなう。 7. 共通の目的を持ち、目標を達成する為に、農耕班全員が一丸となり、良いコミュニケーションを図りながら、取り組んでいく。 8. やりがいを持ち、作業意欲を向上出来るように、色々な作業を提案するとともに、職員の技術向上を図る。 | | | | |
| 10月 | 葉物種蒔  外注作業  サツマイモ収穫 |
| 11月 | 玉葱定植  葉物播種  大根播種  外注作業 |
| 12月 | 畑整備  葉物収穫（ハウス） |
| 1月 | 畑整備  長ネギ収穫 |
| 2月 | 葉物播種（ハウス）  ジャガイモ定植 |
| 3月 | 葉物播種（ハウス）  ジャガイモ定植 |
| **今年度の事業運営報告** | | 前年度とは、班構成も変わり、利用者１２名・支援員４名で作業を行ってきた。  山倉畑と、ハウスの計２か所を使用し、生産を行ってきた。ハウス栽培では、特に温度管理や水やりなどに気を配り、作付けが困難であった冬季期間にも積極的に作付けを行ったが、芽が出たり出なかったりと、収穫量が半減してしまった。畑栽培では、ナスやトウモロコシ、サツマイモなど、収穫時期を的確に捉えることができ、また、病害虫防除の徹底、栄養の管理等に積極的に取り組み、美味しい野菜を提供することが出来た。しかし、天候不順や台風等への対策が不十分なため、全ての野菜を収穫することが出来なかった。来年度は、一年を通して収穫時期を的確に捉え、また災害への対策もしっかり取り組んでいき、美味しい野菜作りを目指していく。  また、今年度もサツマイモ栽培に挑戦し、農耕班だけではなく園芸班と一緒に収穫することができた。収穫時には利用者が笑顔でサツマイモを掘る姿が多く見られ、収穫後には皆で収穫したサツマイモを食べ、収穫した喜びを皆で分かち合うことができた。来年度も同様に農耕班園芸班関係なく皆で収穫できるような野菜の栽培に取り組んでいく。  今年度は野菜の品質向上に重点をおき、作業を行ってきた。病害虫への対策、作付け時期や収穫時期の的確さ等、本や地元の農家さんに話を聞き、取り組んできた。ナスやトウモロコシやサツマイモ、大根等、作付け・収穫を的確に捉えることが出来た。しかし、オクラやミニトマト等、対策が不十分な野菜もあった。来年度は、全ての野菜において支援員間で連携を取り、利用者と共に野菜作りに励んでいく。  道具の管理については、大切に扱うことへの意識は芽生えているが、時折、作業終了時の手入れを怠る、畑に置き忘れるなど、所定の位置へ保管されていない事があったので、これからも一人ひとりが道具に対する意識を高め、清掃・収納まで責任をもって行えるよう取り組んでいく。  来年度は、今年度に経験した事・反省した事を生かし、作付けする野菜を種から厳選し、より高品質の野菜を栽培できるよう取り組んでいく。また、露地での作付けが困難な作物についても、ハウス栽培の知識を身に付け、ハウスでの栽培に積極的に挑戦していく。さらに、農耕班園芸班関係なく栽培・収穫をできる野菜に挑戦し、利用者一人ひとりが意欲をもって取り組めるような作業内容を提案していく。  利用者に対しては、常に真摯に向かい合い、より多くの知識や作業に対する積極性を身に着けられるよう、取り組んでいく。また、作業だけではなく、集団生活における協調性やマナーについても支援を行う事で、より強固な信頼関係を構築していく。さらに、支援員一人ひとりの意識の向上も支援するうえで重要な要素になってくるので、常に切磋琢磨し、よりよい支援を目指していく。 | | | | | |



平成３０年度　作業指導報告

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 事業班名 | | 園芸班 | 担当支援員 | 日下部由美子　　野口てるみ　　林健之  　向後純子 | | |
| 目　　標 | 1. 季節に応じた花苗を園庭に定植し、施設周辺に花が絶えないようにする。 2. 施設周辺整備や、施設内の清掃を行っていく。 3. 作業棟の整理整頓、作業道具の後片付け・管理を徹底し美化に努める。 4. 利用者個々に合わせた支援をし、作業に参加できるよう取り組んでいく。 5. 見守りやマンツーマンでの対応が必要な利用者も安全に過ごせるよう支援していく。 6. 外注作業は、発注先からの作業指示や納期等を意識して取り組んでいく。 7. 流れ作業をするうえで重要な、自分の役割を最後まで責任を持ってやり遂げることの大切さや、仕事をすることの厳しさ、面白さを体感できるようにする。 8. どのような作業でも班全員で団結して取り組み、楽しんで作業できるよう努める。 | | | | 年　間　作　業　報　告 | |
| ４月 | 園庭花壇整備  施設周辺整備  夏花播種  外注作業 |
| ５月 | 園庭花壇整備  育苗作業  畑整備 |
| ６月 | 園庭花壇整備  花苗定植  畑整備 |
| ７月 | 園庭花壇整備  芝桜管理  施設周辺整備 |
| ８月 | 園庭花壇整備  施設周辺整備  畑整備 |
| 作　業　内　容 | 1. 園庭や花壇に毎日目を向け、天候や気候に合わせて、水やり・除草・追肥等の管理を怠らないよう努める。 2. 除草作業や芝の管理を怠らない。 3. 作業後は必ず支援員が確認を行い、ハウス内・作業棟の整理整頓を定期的に行う。作業で使用する道具・工具の手入れや掃除を行い、大切に使用していく。 4. 利用者一人一人に目を向け、常に向上心を忘れず支援していく。 5. 外作業だけでなく室内での活動も並行して行い、見守りが必要な利用者も安全に過ごせるよう取り組んでいく。 6. 外注作業では、利用者各々の能力に合わせた作業道具を支援員が工夫し提供すると共に、声掛けしながら共に作業を進めていく。 7. 外注参加者が一丸となれるような作業内容の工夫をし、達成感が持てるよう取り組んでいく。 8. 支援員が笑顔で作業や手本を示すことで、利用者が楽しみながら向上できるように支援していく。 | | | |
| ９月 | 園庭花壇整備  バラ剪定  外注作業 |
| １０月 | 外注作業  園庭花壇整備 |
| １１月 | 畑整備  育苗作業  園庭花壇整備 |
| １２月 | 園庭花壇整備  花苗定植 |
| １月 | 施設内整備  園庭花壇整備  施設内清掃 |

|  |  |
| --- | --- |
| 今年度の事業運営報告 | 今年度は、利用者１４名支援員４名で作業を行ってきた。  園庭花壇管理では、春には播種から育成したペチュニア・松葉ボタン・コスモス・マリーゴールド・ダリア、秋から冬にはパンジー・ストックなど季節を通して様々な花を定植することができた。播種・ポット移植・定植など個々に合った作業が行えるよう配慮した。また、定植後の花殻摘みや水かけ、草取りも皆で協力して行い、自分達の育てた花がきれいに咲いている様を見て、落ち葉やゴミを拾いより一層きれいさを保てるよう管理することができた。来年度も芝の手入れや土手沿いの除草やバラの管理も継続し、来客や近隣の方も立ち寄れるような園庭花壇にしていく。  また、今年度はコスモス畑での野菜栽培にも挑戦し、ナス・枝豆・トウモロコシ・カブ・山東菜・ベビーリーフ・サンチュ・レタス・小松菜・ニンジン・カリフラワーなど、葉物から根菜まで多くの種類を播種から育成し、収穫した野菜を日々の昼食で提供し、ナスは販売することもできた。畑へ行き作業に参加できる利用者は数名と少ないが、その分広い畑の中で元気に溌溂と作業できるよう支援してきた。しかし、園芸班だけでは園庭整備と畑の両立は難しく、農耕班の協力は必要不可欠であった。来年度も多くの野菜を収穫し昼食に提供すると共に販売を目指し活動していく。  外注作業では、取引先のアタリヤ農園より９月に大口受注があり、利用者と支援員が一丸となり、納期までに収めることができた。作業工程を細かく分けることにより、個々の能力を活かせるよう支援し、１２名の利用者に工賃を支払うことができた。今後も、多くの利用者が携わり、働くことの喜びや協力することの大切さを、明るい雰囲気の中で分かち合えるよう取り組んでいく。  園芸班の利用者は、室内中心での活動をする方や、全てにおいてマンツーマンでの対応や見守りが必要な利用者が大半な為、支援員間での連携を今まで以上に強め、利用者全員が心身共に笑顔で安全に過ごせるよう支援していく。 |

**《平成３０年度園芸班売り上げ**》

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 花苗 | ペチュニア苗等１ポット５０円×３４ | **合計　１，７００円** |

**《平成３０年度アタリヤ農園外注工賃》**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ユリ球根ネット詰め | ７６１個×６.６円 | ４，４５２円 |
| チューリップ球根ネット詰め | １８０００個×２円 | ３０，０００円 |
|  |  | **合計４４，０５２円** |